

# 令和7年度 能美市立浜小学校 学校評価(後期)

重点目標	具体的方策	主担当	評価指標	達成度判断基準	中間評価 最終評価	来年度に向けて
1 令和可能とする組織校体教育を	①行動のベクトルを一つに 浜小の一員として、校長ビジョン実現のために、行動のベクトルを一つにし、組織の力が生きる学校づくりに努める。	教頭	主任を中心とした各組織がPDCAサイクルを機能させ、課題と重点を共有し、連携して取り組める組織を構築している。	<教職員アンケート> A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	A 97.1% ↓ A 100.0%	主任を中心とした各組織が、定期的な振り返りを通してPDCAサイクルを機能させ、課題や重点事項を明確化しながら連携を深めてきた点は、組織全体の力を高めるうえで大きな意義があった。また、教職員間の情報共有がより円滑になり、若手を含む全職員が自分の役割を意識しながら主体的に行動できる場面が増えてきている。今後も、組織としての方向性を常に確認し合いながら、自律的・協働的に動ける集団づくりを進め、学校全体としての力がより発揮されるよう努めていきたい。
	②働き方改革の推進 教育活動の見直し、業務の効率化・平準化による働き方改革を推進する。	教頭	時間管理や環境整備、業務の平準化を意識し、教育効果を上げる工夫をしている。	<教職員アンケート> A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	A 94.2% ↓ A 96.6%	働き方改革の理念が教職員に浸透し、教育活動全体を見直しながら業務の効率化・平準化を進める取組が継続して行われた。時間管理の意識が高まり、計画的に業務を遂行することで、教材研究や児童理解に充てる時間をより確保できるようになってきている。今後は、校務DXの活用をさらに進めるとともに、効率化によって生まれた時間を授業改善や個に応じた支援に充て、教職員の働きやすさと教育の質の向上を両立させていくことが求められる。
	③GIGAスクール構想の推進 校内外GIGA研修を通して、授業におけるICTの効果的活用と、校務のDXを進める。	主幹	授業ではPC端末などのコンピュータを使った学習活動をよく行っていると思う。	<児童アンケート> A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	A 95.8% ↓ A 94.4%	基本的な操作やタイピング等の技術については、学年に応じた力がついてきている。今後の課題としては、よりよくICTを活用し、深い学びができるように、情報モラルも含めた情報活用能力の育成に全校で系統的・計画的に取り組み、力を積み重ねる必要がある。現在、朝学習で取り組んでいる情報活用能力指導を継続すること、さらに総合的な学習の時間で系統性をもって指導できる仕組みを整えたい。
2 児童の資質能力を高める 主体的・対話的で深い学びの実現	①授業改善をすすめる ICTの効果的活用とセレクト学習をさらに進化させ、「見方・考え方を働かせた深い学び」を実現する	研究主任	子供が学びの主体者となるために、ICTを用いた個別と協働の一体的な充実に向けて、授業改善に主体的に取り組んでいる	<教職員アンケート> A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	A 97.1% ↓ A 93.1%	後期も校内研修会、PA要請訪問、LDX公開授業とそれに向けたブラッシュアップ授業等、授業づくりに関わる場と実践の場をバランスよく設定できたことが肯定的な評価につながったと考えられる。セレクト学習という方法で児童に確実に力をつけていくために、教師の見取りと支援の充実、対話や他者参照の質の向上を目指す取組に力を入れていく。
	②基礎基本となる学力の定着 基礎基本の定着に特化した取り組みを続け、基礎基本の定着を図る。	主幹	国語・算数の学期末テストにおいて、平均が90点以上なる。	<学期末テスト> A: 90点~ B: 80点~ C: 70点~ D: 60点未満	B 85.0% ↓ B 84.5%	CSの方に支援をいただいている朝学習での「浜っ子チャレンジ」で算数の計算力の向上を図った。また、定着していないものについては再指導・再テストを行う等しながら取り組んできた。来年度も同様の取組は継続するとともに、授業や家庭学習の取組を改善しながら基礎基本となる学力の定着に力を入れるとよい。
3 温かな安全・安心な心をつくり	①「元気に明るく笑顔で登校」できる学校 わかりたい、やりたい気持ちを活かし活躍の場や居場所づくりを推進し、自己存在感の向上を柱に全員が「元気に明るく笑顔で登校できる」学校づくりをすすめる。	生徒指導主事	「学校は楽しい」「自分にはよいところがあると思う」と答える児童を増やす。	<児童アンケート> A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	B 87.6% ↓ B 87.8%  楽しい90.6% よい84.9%	3学期に向けて不登校傾向児童や児童アンケートCD評価児童を共通理解する。2学期の「魅力ある学校づくり」の取組の成果と課題を学年団で話し合う。それらをもとに、3学期生活目標「支えてくれる人に感謝の気持ちを表現しよう」と関連させて、6年生を送る会では実行委員を中心に児童が主体的に協力していくなど、授業や各行事など児童が活躍できる場を意図的に作ることで、児童の楽しさや自己肯定感につなげていく。
	②積極的な生徒指導 生徒指導の4つの視点を生かした教育活動、授業改善に努める。	生徒指導主事	生徒指導の4つの視点を生かす言葉かけ、場づくり、しかけなどを意図的にしている。	<教職員アンケート> A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	A 97.1% ↓ A 100.0%	校内の研究授業や若手のチャレンジ授業の機会に生徒指導の4視点を活かす授業の取組「チェック&トライ」を行った結果、教職員の意識が高まり、普段の授業場面で意図的に4視点を活かす具体的な言動を実践した結果と考える。授業や行事の中での積極的な生徒指導を行う場面を多くしたり、感謝を伝え合ったりすることで、児童が「学校は楽しい」と思える機会、「自分にはよいところがあると思う」機会が増えるという。
4 健康で安全な生活の習慣化	①体力・運動能力の向上 スポチャレの取組を通して体力・運動能力の向上を図る。	保健主事	スポチャレの取組を継続的にいき、記録賞(トロフィー)の獲得をめざす。	<記録賞を獲得したクラス> A: 全クラス B: 15クラス以上 C: 10クラス以上 D: 10クラス未満	C 11クラス (57%)	達成できたクラスは、すべてベストタイムの記録であり、こまめに入力している場合は(記録挑戦にチャレンジしたときの合計記録で競う)チャレンジ部門での達成クラスが増えると考えられる。入力の手間が根本原因と考えられるので、校務ポータルにリンクを貼り付けてハードルを下げた。また、全体の達成状況を把握しやすい環境を整えた。室内の体育が増える3学期に、取組を進められるよう啓発を続けていく。
	②健康教育の充実 家庭や地域と協力してメディア対策に関する指導を充実し、よりよい生活習慣の確立をめざす。	保健主事	ご家庭ではテレビやゲーム、SNS等について利用ルールを決めて実行している。	<児・保アンケート> A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	C 77.9% ↓ C 77.5%  児79.5% 保75.5%	ほぼ変わらない数値になっている。学校での指導と家庭での実情に乖離がある。トラブルがあった際に確認すると、子どもに任せていて保護者がチェックをしていない事案が多く見られる。保護者自身も、どのように対応すればよいのか迷っている様子が見える。今後は、ルールを決めて守ることが児童の健康と将来を守ることにつながると意識を啓発するとともに、具体的なデータやルールの例を示すことで、家庭との連携を一層推進していきたい。
5 家庭・地域との連携	①家庭・地域との連携 PTAや学校運営協議会と連携し、地域を生かした教育の推進を図る。	教頭	学校はPTAや各種ボランティア、見守りの方々の協力を得て、安全安心な学校づくりを推進している。	<保護者アンケート> A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	A 96.6% ↓ A 95.9%	行事や日常の教育活動の場面において、地域の方々が積極的に関わってくださることで、子どもたちは地域の温かさや支えを実感しながら学ぶことができた。また、保護者や地域と情報を共有する機会が増え、学校への理解と協力体制が一層強まっている点も成果である。今後は、オンライン活用を含む多様な連携手段を検討し、無理なく参画できる仕組みづくりを進めることで、地域とともに歩む学校づくりを目指していく。